

2025 年度

明海大学大学院

応用言語学研究科

博士前期課程 B 日程

外国語試験問題

注 意 事 項

- 1 解答開始の合図があるまで、この問題の中を見てはいけません。
- 2 日本語・英語・中国語から 1 言語を選択して解答してください。ただし、母語を選択することはできません。

2025年度大学院応用言語学研究科博士前期課程入学試験問題

No. 1/3

日 程	研 究 科	区 分	試 験 科 目
B 日程	応用言語学研究科	一般 社会人 外国人留学生	日 本 語

第1問 (1)～(10)の下線部の読みをひらがなで書きなさい。

- (1) 今後、さらなる実証的な研究の 蓄積 が望まれる。
- (2) 以上のような方法が先行研究で 頻繁 に用いられている。
- (3) 今後の動向について、追跡調査 が必要である。
- (4) 影響を与える要因を 考慮 する必要がある。
- (5) より厳格に定義付けを行うことを 推奨 する。
- (6) テスト問題には 挿絵 と脚注を付けた。
- (7) 資料から 抽出 されたコメントを分類した。
- (8) 教科の 枠 を超えて、連携していく必要がある。
- (9) 本研究は口頭発表の内容を 大幅 に加筆・修正したものである。
- (10) 個人情報にかかわる固有名詞等は 伏せて ある。

第2問 (11)～(20)の下線部のひらがなを漢字に直しなさい。

- (11) 本研究の結果が実践の幅を広げる いちじょ になるであろう。
- (12) 文法項目に しょうてん を当てて分析を行った。
- (13) これは いとてき に設定したものである。
- (14) この研究は要因が こうらく している可能性がある。
- (15) 以上のような かいにゆう を行った結果、統制群に比べてA群に高い値が認められた。
- (16) ていせいてきけんきゅう により仮説を生成する。
- (17) 事前と事後のテストでは けんちょ な変化がみられなかった。
- (18) これまでに ていしょう された理論について、改めて検証する。
- (19) Aは個人によって にな われるものではなく対話を通して実現されるものではないか。
- (20) 本実践から得られた視点は、具体的に問題を解決するための いとぐち の一つとなろう。

第3問 次の文の下線(21)～(25)に適切なことばを下のA～Eから選んで、その記号を書きなさい。

- ・ 以上の文献研究を踏まえ、今後の展望について (21)。
- ・ 一定の効果を見出したことは本研究の成果の一つと (22)。
- ・ Cとは、第三者によってデザインされた学習機会のことを (23)。
- ・ これらの関係性について認知モデルを (24)。
- ・ 教材不足という根本的な問題が、この分野の研究の歩みを遅くしていることには (25)。

A. 指す B. 論じていく C. いえよう D. 間違いない E. 構築した

2025年度大学院応用言語学研究科博士前期課程入学試験問題

No. 2/3

日 程	研 究 科	区 分	試 験 科 目
B日程	応用言語学研究科	一般 社会人 外国人留学生	日 本 語

第4問 次の文章を読んであとの問(1)～問(4)に答えなさい。

問題文については、
著作権の関係から掲載いたしません。

2025年度大学院応用言語学研究科博士前期課程入学試験問題

No. 3/3

日 程	研 究 科	区 分	試 験 科 目
B日程	応用言語学研究科	一般 社会人 外国人留学生	日 本 語

問(1) 下線部 Aアクセント (強勢) や抑揚が少ない とあるが、「アクセント」と「抑揚」の違いをわかりやすく説明しなさい。

問(2) 下線部 B平家が持ち込んだというロマンチックな説はあきらめきれない とあるが、これは「平家が持ち込んだという」説は正しくないらしいということを前提としている。なぜ正しくないと考えられるのか。わかりやすく説明しなさい。

問(3) 下線部 C「100年後は東京も福島弁になっている」 とあるが、なぜそうなるのか。わかりやすく説明しなさい。

問(4) この文章を読んであなたが考えたことを、120字以上150字以内で述べなさい。